

# 各分科学会および各部門について

(平成 25 年 6 月 28 日)

分科学会	設立の趣旨と含まれる領域
日本運動器理学療法学会	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>本学会は、身体運動にかかわる骨、軟骨、靭帯、腱、骨格筋など身体を構成し、身体運動を可能にする運動器の単独あるいは複合された疾患と機能障害に対する理学療法とその予防の研究を推進させることを目的とする。合わせて、関係分野との交流を図り、運動器研究の進歩に貢献し、日本と世界の保健、医療、福祉の発展に寄与する。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 運動器疾患とその障害に対する理学療法</li><li>2. 末梢神経疾患とその障害に対する理学療法</li><li>3. 運動器疾患に伴う疼痛、炎症に対する理学療法</li><li>4. 運動器疾患とその障害の予防、など</li></ol>
日本基礎理学療法学会	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>疾患領域に基づく縦断的な研究体系に対して、理学療法学における横断的かつ学際的な学問統合の基盤の場として資することを通し、臨床における理学療法効果の根拠となる知見を得るための学問分野として、真に科学的な理学療法学の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 解剖・組織学、生理学、生化学、病理学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子工学等に関する理学療法学領域の基礎研究（運動や物理的刺激による生体反応の解明や、痛みの原因解明・治療法の開発に関する研究を含む）。</li><li>2. 運動学、運動力学、生体工学に関する理学療法学領域の基礎研究（機能解剖に関する研究、筋電図、超音波診断装置を用いた研究を含む）。</li><li>3. 神経科学、認知科学、心理学に関する理学療法学領域の基礎研究（運動制御・運動学習に関する研究を含む）。</li><li>4. 理学療法評価学に関する基礎研究。</li><li>5. 運動生理学に関する理学療法学領域の基礎研究。</li></ol>
日本呼吸理学療法学会	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>呼吸理学療法は、慢性期や急性期の呼吸管理において、呼吸障害の予防と治療のために適応される理学療法的手段である。</p> <p>日本の呼吸理学療法の歴史は古く、理学療法士養成校ができる以前の1950年代から報告がみられる。当時は肺結核の外科手術後の呼吸管理を目的に「肺理学療法」という名称で実施されていたが、理解のある医師や実施できるセラピストは限られており、付加的な手段にすぎなかった。しかし現代では慢性閉塞性肺疾患を中心に、多くのエビデンスが確立され、呼吸理学療法への関心も高くなっている。さらには内科医に限らず外科医や集中治療医にも呼吸理学療法の必要性和有効性が認識され、その期待度も大きくなってきている。</p> <p>呼吸は酸素を体内に取り込み、二酸化炭素を体外に排出する活動であり、酸素は生命維持のために必要なエネルギーを生産するために使われる。呼吸機能の重要性はあらゆる疾患</p>

	<p>や障害に共通しており、呼吸理学療法は非常に幅広い分野を対象としている。日本呼吸理学療法学会の設立は、呼吸理学療法にかかわる臨床と研究、教育活動を推進し、呼吸理学療法を普及・発展させることで、国民の健康の維持・向上に寄与することを目的にしている。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、肺結核後遺症、など）</li> <li>2. 神経筋疾患（筋萎縮性側索硬化症、進行性脊髄性筋萎縮症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、筋ジストロフィーなど）</li> <li>3. 新生児の呼吸障害</li> <li>4. 急性の呼吸障害</li> <li>5. 慢性の呼吸障害</li> <li>6. 周術期呼吸障害（胸部手術、腹部手術など）</li> <li>7. 運動負荷試験</li> <li>8. 人工呼吸管理</li> <li>9. 酸素療法</li> <li>10. 在宅呼吸ケア、など</li> </ol>
<p>日本支援工学 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>補装具領域の理学療法支援には、疾病や障がいによる運動器や神経系の運動制御に関する身体治療的側面と、補装具や住環境などの環境因子との適応を科学する支援工学的側面での理学療法学が存在する。</p> <p>この領域は補装具等の治療的介入の検証や福祉機器の適応支援に関する実践的研究を基盤とした応用理学療法研究であり、その対象には、補装具、障がい者自立支援を目指した環境制御装置や介助機器や運動機器におけるロボットに見られるロボティクス支援工学などの応用科学の領域をも含んでいる。</p> <p>本学会ではこれらの学術研究活動を横断的に取り組みながら理学療法の受け手となる障がい者（児）、高齢者の活動・参加とノーマライゼーションを促進し、日本地域理学療法学会をはじめとする他理学療法学会との連携を図りながら、その人の急性期、回復期、維持期、終末期といった生涯にわたる包括的理学療法サービスの展開と QOL 向上に寄与することを設立趣旨とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 装具療法、補装具適合支援に関する研究</li> <li>2. 義肢適合支援、パーツ開発に関する研究</li> <li>3. 車いす、自助具、介護用具等福祉用具の適応支援およびロボティクスの導入や機器開発に関する研究、など</li> </ol>
<p>日本小児 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>小児を対象とした理学療法の評価と治療、安全管理、学校教育、療育環境など理学療法の視点にたった、幅広い理学療法の普及・啓発に資する実験的・調査的な研究を推進する。あわせて、地域や行政との連携を含めた保健医療制度における実践活動ならびに制度設計の横断的取組や草の根活動を教育・学術的な側面から支援することを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害ならびに運動器、呼吸、循環、代謝疾患を有する小児の評価と治療</li> </ol>

	<p>2. 特別支援学校・学級を含む学校教育における理学療法の役割と効果</p> <p>3. 地域での母子保健、行政での取り組み</p> <p>4. 小児の健康増進、傷害予防に資する調査・研究、など</p>
<p>日本神経 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>神経障害に基づく複合的で幅広い課題について、理学療法の視点に立った基礎研究および臨床研究を推進し、根拠に基づく実践的な理学療法の開発・研鑽と普及および教育の向上を図り、神経障害に関わる理学療法の発展と、わが国の保健・医療・福祉および国民の健康に寄与することを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳卒中（頭部外傷、脳腫瘍による脳損傷を含む）</li> <li>2. 発達障害（神経障害による）</li> <li>3. 脊髄損傷</li> <li>4. 神経筋疾患、など</li> </ol>
<p>日本心血管 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>高齢化と生活習慣の変化により、心血管疾患（狭心症、心筋梗塞、大血管疾患、心不全、末梢血管疾患、不整脈など）は増加している。また、急性期・回復期・維持期における予防・治療・理学療法の新たな介入方法の開発や調査、臨床研究、さらには疾患の理解を深めるための啓発活動が急務となっている。そのため、学術集会をはじめ、研究事業、各種講習会、市民公開講座、情報交換機会提供、留学支援、研究助成などの人材育成を通して、心管理理学療法学を発展させることが必要である。そこで、本学会は心管理理学療法にかかわる基礎的、応用的研究を推進し、あわせて当該療法の国内外への普及を啓発することで、国民の健康の維持・向上に寄与し、本邦ならびに世界の心大血管医療に貢献することを目的として設立する。</p> <p>活動内容として、1. 心管理理学療法における学術活動。2. 心管理理学療法における、教育および知識・技術の向上に関する活動。3. 心管理理学療法の普及促進に関する活動。4. 心管理理学療法における国際交流に関する活動。を主とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞、急性冠症候群）</li> <li>2. 心臓外科手術、心臓移植</li> <li>3. 慢性心不全</li> <li>4. 大血管疾患、閉塞性動脈硬化症</li> <li>5. 小児先天性心疾患</li> <li>6. 心大血管疾患の一次予防、二次予防、三次予防に関する事</li> <li>7. 心血管疾患患者の生命予後やQOL向上に関する事</li> <li>8. 心血管疾患患者の生活機能障害に関する事</li> <li>9. 補助循環装置関連</li> <li>10. その他、心血管疾患が及ぼす全ての疾患（肺高血圧、慢性腎不全など）やその治療・リハビリテーションなど</li> </ol>

<設立の趣旨>

スポーツ理学療法は、様々な目的をもってスポーツに取り組む対象者が、効率よく安全にスポーツ活動を実践できるよう、理学療法士の知識や技能を活用していくものである。その主な目的と場面は次のものになる。

・外傷、疾病、等による身体的問題によって、スポーツ活動の休止や制約を余儀なくされた者や、スポーツ活動時の身体的不具合を有している者を対象として、早期に良い身体状態でスポーツ再開・復帰が可能となるようにする。

・スポーツ活動に、様々な目的で取り組む人々を対象として（活動レベルや競技種目を問わず）、より良い身体状態でのスポーツ実践、外傷や疾病の予防、スポーツ能力の向上をはかる。

本分科学会は、スポーツ理学療法に関係する基礎研究、臨床研究を推進し、関係分野との学術的交流をはかり、研究内容に関する包括的検討を加え、その効果と根拠を学術的に探求していくものである。それにより、理学療法とスポーツの発展に寄与することを本分科学会活動の目的とする。

<主な領域>

・スポーツ理学療法の主な領域と含まれる内容は、次のようなものになる。

●スポーツ分野における理学療法の応用

- ・スポーツ再開、復帰を目標とした外傷後、疾病後のリハビリテーション
- ・スポーツ活動の実践にあたってのリコンディショニング
- ・スポーツ活動の実践にあたってのコンディショニング
- ・スポーツ活動時の外傷予防
- ・スポーツ活動時の疾病予防
- ・スポーツ実践能力の向上
- ・身心の健全な育成に関わる学校保健
- ・障がい者のスポーツ活動への支援

●スポーツ理学療法の対象

- ・スポーツ選手（健常者、障がい者）
- ・スポーツ愛好者（健常者、障がい者）
- ・健康増進スポーツ実践者
- ・児童、生徒

●スポーツ理学療法の内容

- ・運動療法（各種エクササイズ）
- ・物理療法
- ・徒手療法
- ・補装具、補助具、用具・道具

●スポーツ活動を制約しうる疾患の病態、機能不全と身体運動、スポーツ活動への影響

- ・運動器疾患：スポーツ外傷と障害（急性外傷と慢性外傷）
- ・循環器疾患
- ・呼吸器疾患
- ・身体的欠損、麻痺等を伴う疾患
- ・その他

<p>日本地域 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt; 高齢者や障がい者およびその家族が住み慣れた地域において継続して生活できるよう、保健・医療の分野から、主として生活支援の視点で学術的・実践的活動を行う。対象は高齢者・障がい者・障がい児を含むあらゆる地域住民とし、地域理学療法の普及と発展に寄与することを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年学を基盤とする領域 介護予防、転倒予防、加齢、高齢者に対する機能評価と理学療法など</li> <li>2. 在宅支援領域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問（訪問リハ、介護者負担を含む）</li> <li>・通所（通所型リハ）</li> <li>・施設（施設を生活の場とする慢性期・維持期リハ）</li> <li>・就労・就学（障がい児、障がい者の就学・就労支援）</li> <li>・社会参加（障がい者スポーツ活動、社会参加、権利擁護、アドボカシー）</li> <li>・制度（医療制度、介護制度、福祉制度および法的制度への働きかけ）</li> <li>・生活環境整備（地域生活に伴う住環境整備、福祉用具、まちづくり政策形成）</li> </ul> </li> <li>3. 保健を基盤とする領域 健康増進、生活習慣病予防、高齢者の健康管理、女性の健康管理、集団評価と健康づくりのためのシステム構築など</li> </ol>
<p>日本糖尿病 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt; 糖尿病の予防から治療、また糖尿病管理に関連する腎臓や肝臓などの機能低下・障害、肥満症等の代謝疾患・障害に対する理学療法の理論、介入方法および効果検証に関する学術活動を推進します。</p> <p>糖尿病の基本治療として、運動療法のエビデンスは確立していますが、実施率は低く、理学療法士の介入により治療行動が向上することを示す必要があります。また、理学療法は神経障害や動脈硬化性疾患（足病変や末梢動脈疾患）などの糖尿病慢性合併症に有効ですが、十分普及しているとは言えません。本学会はこれらの課題に取り組み、実績を公表して糖尿病理学療法の発展に努めます。</p> <p>糖尿病では、筋力低下などの運動器障害、バランスや歩行障害が明らかにされており、内科系のみならず神経系や運動器を専門とする理学療法士の参画が求められます。</p> <p>また、急速な進歩を遂げる基礎分野の糖尿病研究と臨床の連携には、基礎系の理学療法士の関わりも必要です。</p> <p>糖尿病は増加の一途をたどる国民病であり、医療界全体での対応が求められ、理学療法士にも大きな期待が寄せられています。糖尿病理学療法学会では、多様な専門性を持つ多くの会員の入会を切望します。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病に対する運動療法と疾患管理指導（行動化学的理論に基づく療養指導）</li> <li>2. 脂質代謝異常、肥満症、慢性腎臓病などに対する運動療法および疾患管理指導</li> <li>3. 糖尿病特有の合併症やそれに伴う身体機能ならびに生活機能障害に対する理学療法、など</li> </ol>



<p>日本予防 理学療法学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;          理学療法を予防・治療・参加の3つに大別した際に、広く予防に関わる領域を科学的に検証していく。特に、健康増進、傷害予防を含めた1次予防として、地域保健、母子保健、産業保健について公衆衛生、産業衛生の視点を踏まえた理学療法の枠組みでの研究を推進する。あわせて、地域包括ケア、介護予防、再発予防に関係する医学的な安全管理、行動変容、家族や地域を含めた社会制度などに注目し、就労や学業の継続を含めた社会参加を帰結とした理学療法の貢献を科学的に検証することを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康増進、ヘルスプロモーション</li> <li>2. スポーツ活動や就労による傷害予防</li> <li>3. 介護予防、転倒予防、虚弱高齢者の管理</li> <li>4. 再発予防に資する運動習慣、行動変容</li> <li>5. 予防の社会的支援、制度設計に資する科学的検証、など</li> </ol>
<p>日本理学療法 教育学会</p>	<p>&lt;設立の趣旨&gt;          理学療法士として、障害者・患者・他職種・理学療法学生などのヒトを対象とした理学療法教育について、研究発表等の学術的交流を推進していくこと目的とする。          また、職業教育（職能教育）の一環として、職場環境・体制下における介入についての意見交換の場を図ることを目的とする。</p> <p>&lt;主な領域&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床教育（臨床実習教育など）</li> <li>2. 職業教育（職場教育、倫理教育、リカレント教育、キャリア教育および患者教育など）            * 従前の学会演題カテゴリ分類「管理・運営」系が、これに相当</li> <li>3. 学生教育（教育心理、教育評価、教育方法および教育成果など）            * 従前の学会演題カテゴリ分類「臨床教育」「その他」が、これに相当</li> </ol>

部門	設立の趣旨
産業理学療法部門	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>産業保健あるいは産業衛生概念における就労者の職業に関連する健康増進と労働災害、職業病などの予防を目的とする学術的・実践的領域を補完する。特に、職業性腰痛予防、生活習慣病予防、労働災害予防等に関する理学療法の知識と技術の普及と啓発に努める。</p>
精神・心理領域 理学療法部門	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>理学療法の実践において、気分障害（抑うつ状態）、不安障害などの症状、認知症や統合失調症者などの精神疾患を呈する身体障害と精神障害を合併併存する対象者が少なくない。本部門は、分科学会や専門部門と連携し補完するかたちで、精神症状や心理状態を正しく理解し適切な対応ができるよう、精神心理領域の知識や理学療法治療技術に関する普及と啓発に努める。</p>
徒手理学療法部門	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>理学療法士の徒手を用いる治療は、疾患別（運動系、神経系、内臓系など）、器官別（運動器、感覚器、呼吸器など）、組織別（関節、筋肉、神経など）、障害別（機能、動作、生活など）に理論と技術が体系化され、その背景には多様な学際領域が含まれる。徒手理学療法部門は、理学療法士が臨床実践する徒手的治療の科学的根拠を基盤として、国内外における徒手療法に関する学術活動と学術交流の向上と発展に向け、他学会や部門と連携し補完するかたちで、理学療法における徒手理学療法の学問的推進とその啓発に努める。</p>
物理療法部門	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>物理療法関連学会と連携し、理学療法の一手段である物理療法の啓発、および物理療法教育の発展に貢献するための部門である。日本理学療法士協会の職能部門である認定制度ならびに職能に関する委員会業務を展開する。また、日本運動器理学療法学会等の各分科学会における学術活動に対して物理療法領域の学術活動を補完する。</p>
理学療法管理部門	<p>&lt;設立の趣旨&gt;</p> <p>理学療法管理に関する管理運営研修会や管理者研修会などの教育・研修事業を通じて「キャリア形成」を支援し、補完する部門とする。</p> <p>学術的交流および意見交換の場として、「日本理学療法教育学会」において、職業教育（職能教育）の一環として、発表および意見交換の機会を推進する。</p> <p>* 認定領域「管理・運営」を補完する。</p>